

令和元年度 公共事業再評価調書

1. 事業説明シート

(区分) 国補・県単

事業名	中山間地域総合整備事業(国補)	事業箇所	南巨摩郡 身延町 西嶋他	地区名	身延北部	事業主体	山梨県
計画期間	当初計画 H22~H27	現計画 H22~R1	変更計画 H22~R4	④特記事項 なし。			
総事業費	3,900百万円	4,030百万円	3,775百万円	⑤これまでの評価状況(平成21年度事前評価) 本事業は、生産基盤整備の遅れに伴う生産効率の低下、鳥獣被害等による農地の遊休化を防止するとともに、生活環境の改善による定住化、さらには豊かな地域資源を有効に活用した都市と農村の交流促進による当該地域の活性化も期待できる事業であり、実施が妥当である。			

(1) 事業の概要

①事業目的及び効果

本地区は、身延町の旧中富町及び旧下部町の中山間地域である。水稻、露地野菜を中心とした農業が営まれ、特に特産物の「あけぼの大豆」については、町と地域の協議会が一体となり推進がなされている。しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足、鳥獣被害による耕作放棄地の増加など農業振興を進めていくうえで多くの問題を抱えている。

一方、地区内の中部横断道インターチェンジの供用開始を契機とした活性化策として、「あけぼの大豆」等の生産拡大や加工品づくりの推進のため、農業基盤整備を行うとともに農業集落道等の整備を行い、生活環境を改善し、地域活力の向上を図る。

- 主要目標
  - 中山間地域の農村生活・生産機能向上
    - ・農業所得増加額  
1,254千円/ha > 1,203千円/ha ※
    - ・生活環境施設受益者数  
401人/箇所 > 241人/箇所 ※
  - (※評価基準値)
- 副次目標
  - 農業用排水能力の向上
  - 鳥獣被害の軽減
- 副次効果
  - 遊休農地の解消

②事業概要	現計画	変更計画
農業用排水路	L=8,948m	→ L=7,663m
農道	L=4,219m	→ L=3,376m
鳥獣害防止施設	L=67,749m	→ L=59,362m
農業集落道	L=2,845m	→ L=2,675m
営農飲雑用水施設	N=一式	→ N=一式
農業集落排水路	L=1,288m	→ L=1,288m
防火水槽	N=11カ所	→ N=11カ所

③全体計画

	平成30年度まで	令和元年度(評価実施年度)	令和2年度以降
現計画	農業用排水路L=6,610m 農道L=2,034m 鳥獣害防止施設L=52,335m 農業集落道L=1,175m 営農飲雑用水施設N=一式 農業集落排水路L=748m 防火水槽N=4箇所	農業用排水路L=2,338m 農道L=2,185m 鳥獣害防止施設L=15,414m 農業集落道L=1,670m 営農飲雑用水施設N=一式 農業集落排水路L=540m 防火水槽N=7箇所	/
	事業費 2,911 百万円	1,119 百万円	
変更計画	農業用排水路L=6,610m 農道L=2,034m 鳥獣害防止施設L=52,335m 農業集落道L=1,175m 営農飲雑用水施設N=一式 農業集落排水路L=748m 防火水槽N=4箇所	農業用排水路L=333m 農道L=399m 鳥獣害防止施設L=1,000m 農業集落道L=540m 営農飲雑用水施設N=一式 農業集落排水路L=190m	農業用排水路L=720m 農道L=2,977m 鳥獣害防止施設L=6,027m 農業集落道L=960m 営農飲雑用水施設N=一式 農業集落排水路L=350m 防火水槽N=7箇所
	事業費 2,911 百万円	300 百万円	564 百万円

(2) 評価項目 [事業を巡る社会経済情勢等の変化]  
(今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容)

- ①地域・住民の意向状況  
鳥獣害防止施設をはじめ、農業用排水路、農道等の未着手路線については、早期の整備が求められている。
- ②産業・経済情勢  
本地区内における中部横断道インターチェンジ供用開始に伴う交流人口の増加を契機と捉え、「あけぼの大豆」の加工品開発など直売所および加工施設を核とする農業を通じた地域活性化の取り組みが進展している。
- ③国等の方針 なし。
- ④上位計画・関連事業計画等  
新・やまなし農業大綱(平成27年12月策定)
- ⑤自然環境条件等 なし。
- ⑥その他 なし。

(3) 評価項目 [評価時点の費用対効果分析]

項目	着手時点	変更計画時点	
総事業費	3,900 百万円	3,775 百万円	
工期	H22 ~ H27	H22 ~ R4	
評価基準年	H21	R1	
経済効率性	費用	4,220 百万円	4,155 百万円
	建設費	4,220 百万円	4,155 百万円
	便益	6,210 百万円	6,279 百万円
	作物生産効果	3,090 百万円	2,955 百万円
	営農経費節減効果	720 百万円	511 百万円
その他※	2,400 百万円	2,813 百万円	
B/C	1.5	1.5	

※その他は、生活環境改善効果、走行経費節減効果、災害防止効果、品質向上効果、一般交通等経費節減効果、維持管理節減効果、生活用水効果を算定している。  
費用便益分析マニュアルにより算出。  
費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。

## 2. 評価シート

<p><b>(4) 評価項目 [事業の進捗状況及び見込み]</b></p> <p>①これまでの計画変更等の概要 物価変動等により事業費が増となった。  (平成26年度変更内容) 総事業費 当初 3,900百万円 → 変更 4,030百万円</p> <p>②進捗率 別表のとおり。</p> <p>③事業進捗が順調でない理由 着手時に比べ鳥獣被害が地域全体に広がり、大きな課題となっていたため、より効果的で維持管理が容易となるよう、設置位置について地元と検討した結果、河川区域・砂防指定地等を通る路線などもあり、実施にあたり関係機関との協議や地元関係者の調整に不測の日数を要している。</p> <p>④今後の事業執行上の問題点 なし。</p> <p>⑤変更計画の進捗予定 (期間) 地元から早期の事業実施を強く望まれている鳥獣害防止施設について、重点的に整備を進めることとする。 その他工種については計画的かつ効率的な実施に務めることとし、工期を3年延期して令和4年度の完了を目指す。</p>	<p><b>⑥変更計画の変更内容 (事業費)</b></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>変更工種等</th> <th>事業費増減</th> <th>変更理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業用排水路</td> <td>20百万円の減</td> <td>現地精査の結果、一部区間について既存水路を用いることが可能なため、工事費の減。</td> </tr> <tr> <td>農道</td> <td>98百万円の減</td> <td>現地精査の結果、一部区間について既存道路を使用可能なため、工事費の減。</td> </tr> <tr> <td>農業集落道</td> <td>108百万円の減</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鳥獣害防止施設</td> <td>157百万円の減</td> <td>現地の状況や柵の維持管理を考慮し、設置位置を検討した結果、ルートの一部を変更したことに伴う工事費の減。</td> </tr> <tr> <td>営農飲雑用水施設</td> <td>128百万円の増</td> <td>詳細調査の結果、飲用水として安全な水質ではなかったことから、取水位置の変更を行う必要が生じたため、管路延長及び仮設工の増に伴う工事費の増。</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>255百万円の減</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><b>(5) 評価項目 [環境負荷等への配慮]</b> なし。</p> <p><b>(6) 評価項目 [コスト縮減の可能性]</b> 農道などにおいて、一部区間を既設利用とし、コスト縮減を図る。</p> <p><b>(7) 評価項目 [代替案立案の可能性]</b> なし。</p> <p><b>(8) 所管部の今後の方針</b>    継続・<u>見直し継続</u>・その他 (    ) (理由) 安定的な用水の確保や鳥獣害防止施設の整備による安心できる営農環境など、地域の活性化に不可欠な整備であることから、事業を継続し、令和4年度完了を目指す。</p>	変更工種等	事業費増減	変更理由	農業用排水路	20百万円の減	現地精査の結果、一部区間について既存水路を用いることが可能なため、工事費の減。	農道	98百万円の減	現地精査の結果、一部区間について既存道路を使用可能なため、工事費の減。	農業集落道	108百万円の減		鳥獣害防止施設	157百万円の減	現地の状況や柵の維持管理を考慮し、設置位置を検討した結果、ルートの一部を変更したことに伴う工事費の減。	営農飲雑用水施設	128百万円の増	詳細調査の結果、飲用水として安全な水質ではなかったことから、取水位置の変更を行う必要が生じたため、管路延長及び仮設工の増に伴う工事費の増。	合計	255百万円の減	
変更工種等	事業費増減	変更理由																				
農業用排水路	20百万円の減	現地精査の結果、一部区間について既存水路を用いることが可能なため、工事費の減。																				
農道	98百万円の減	現地精査の結果、一部区間について既存道路を使用可能なため、工事費の減。																				
農業集落道	108百万円の減																					
鳥獣害防止施設	157百万円の減	現地の状況や柵の維持管理を考慮し、設置位置を検討した結果、ルートの一部を変更したことに伴う工事費の減。																				
営農飲雑用水施設	128百万円の増	詳細調査の結果、飲用水として安全な水質ではなかったことから、取水位置の変更を行う必要が生じたため、管路延長及び仮設工の増に伴う工事費の増。																				
合計	255百万円の減																					

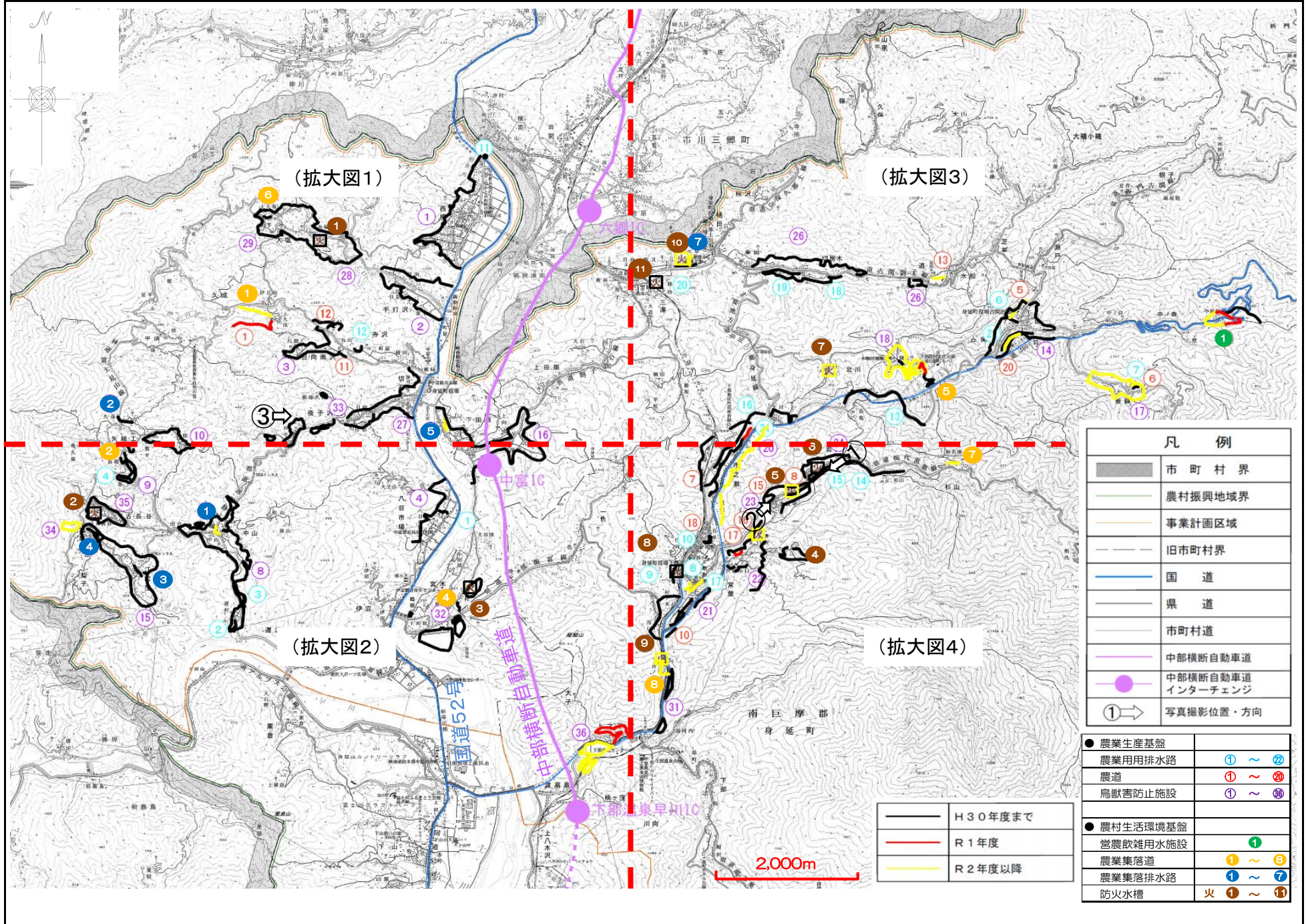
### ○別表-進捗率 (事業費ベース)

算出方法：【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100    【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100    【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100

単位：%

	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	現	計画	8.8%	21.6%	41.8%	48.0%	54.3%	59.2%	64.7%	69.3%	72.2%	100.0%	-	-
実績		8.8%	21.6%	41.8%	48.0%	54.3%	59.2%	64.7%	69.3%	72.2%	79.7%	-	-	-
変更計画											85.0%	91.5%	97.3%	100.0%

### 3. 添付資料シート（1）

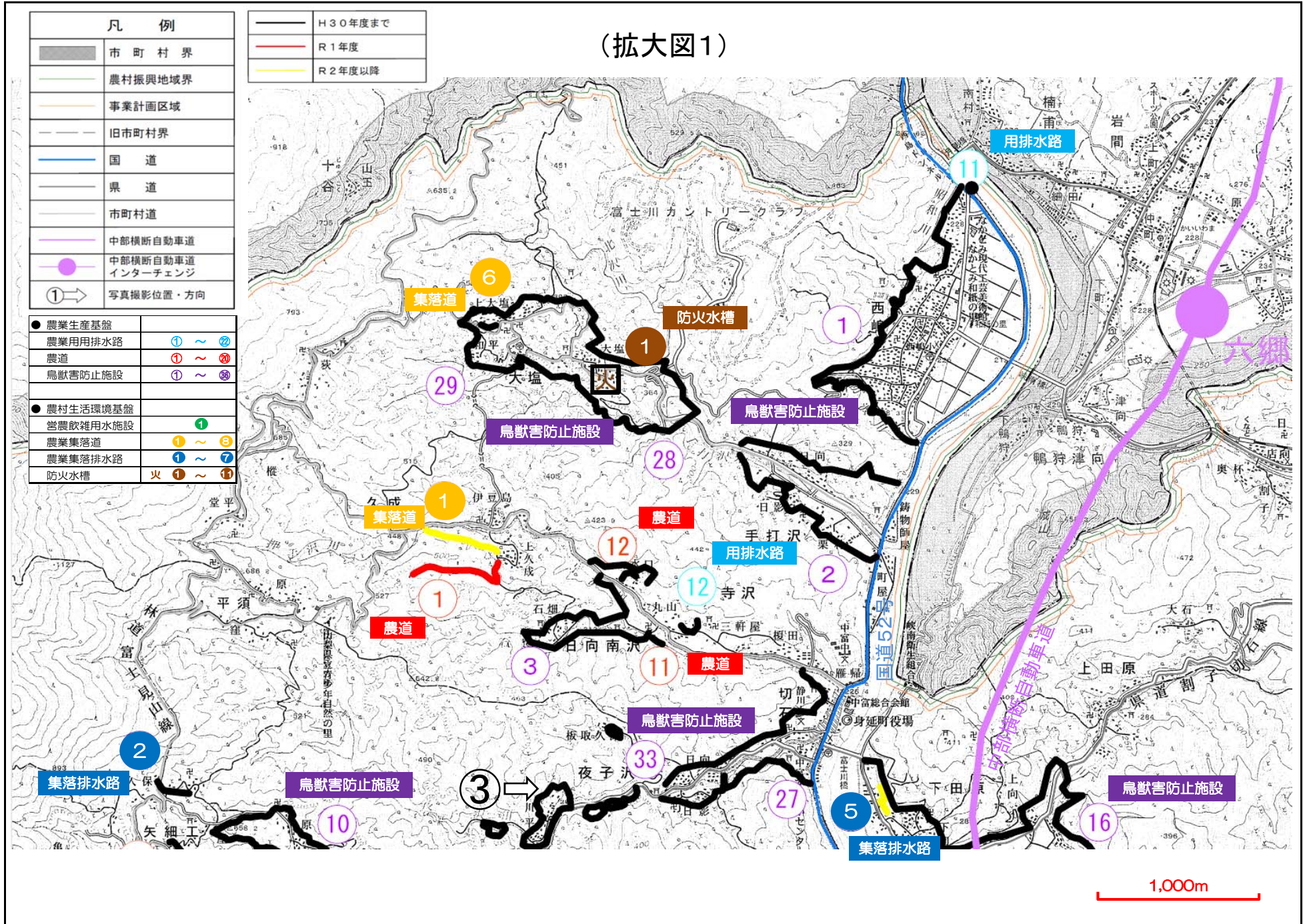


凡 例	
	市 町 村 界
	農村振興地域界
	事業計画区域
	旧市町村界
	国 道
	県 道
	市町村道
	中部横断自動車道
	中部横断自動車道 インターチェンジ
	写真撮影位置・方向

● 農業生産基盤	
農業用排水路	① ～ ⑳
農道	① ～ ㉑
鳥獣害防止施設	① ～ ㉒
● 農村生活環境基盤	
営農飲雑用水施設	①
農業集落道	① ～ ③
農業集落排水路	① ～ ⑦
防火水槽	火 ① ～ ⑬

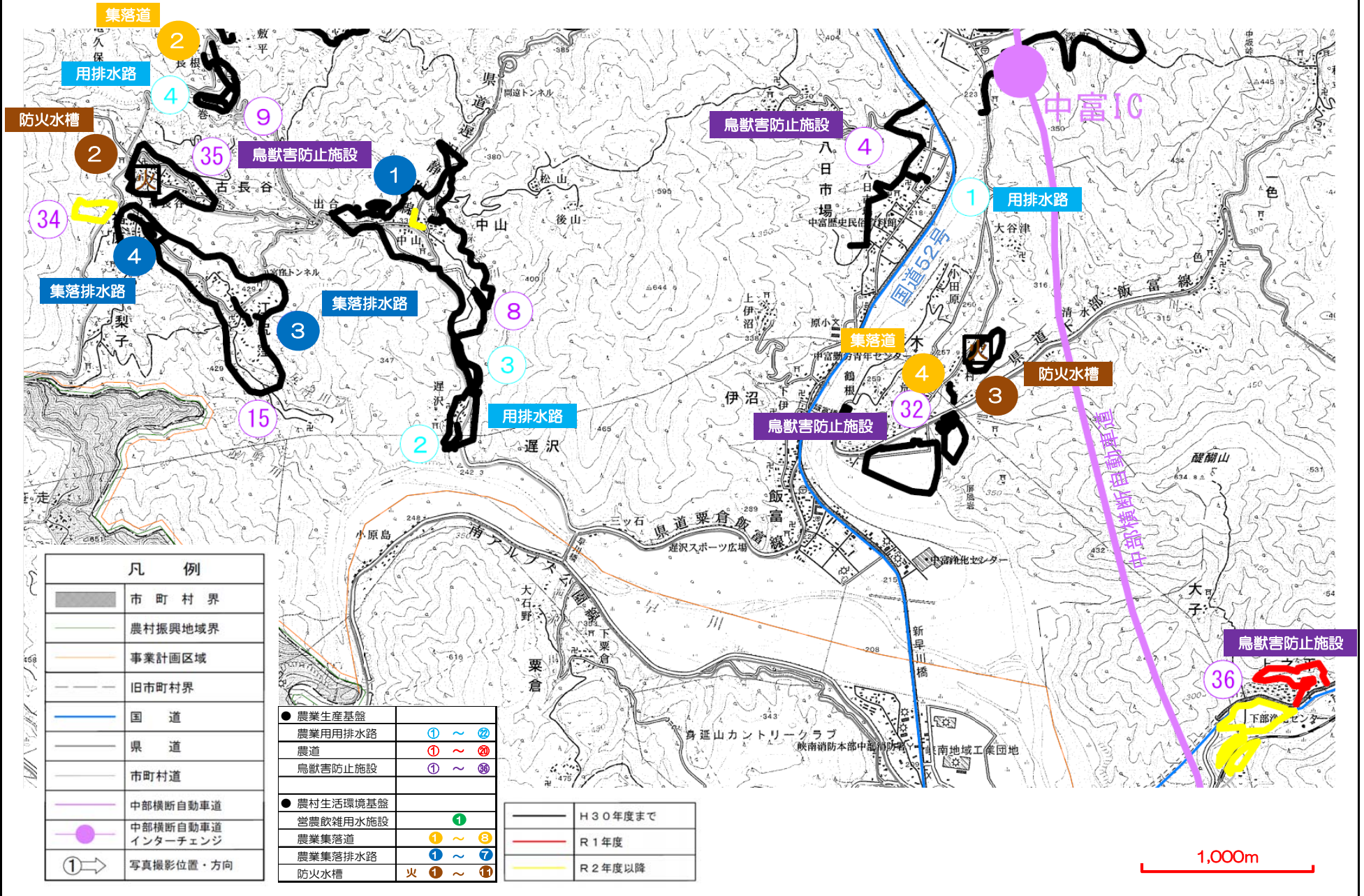
	H30年度まで
	R1年度
	R2年度以降

### 3. 添付資料シート (2)

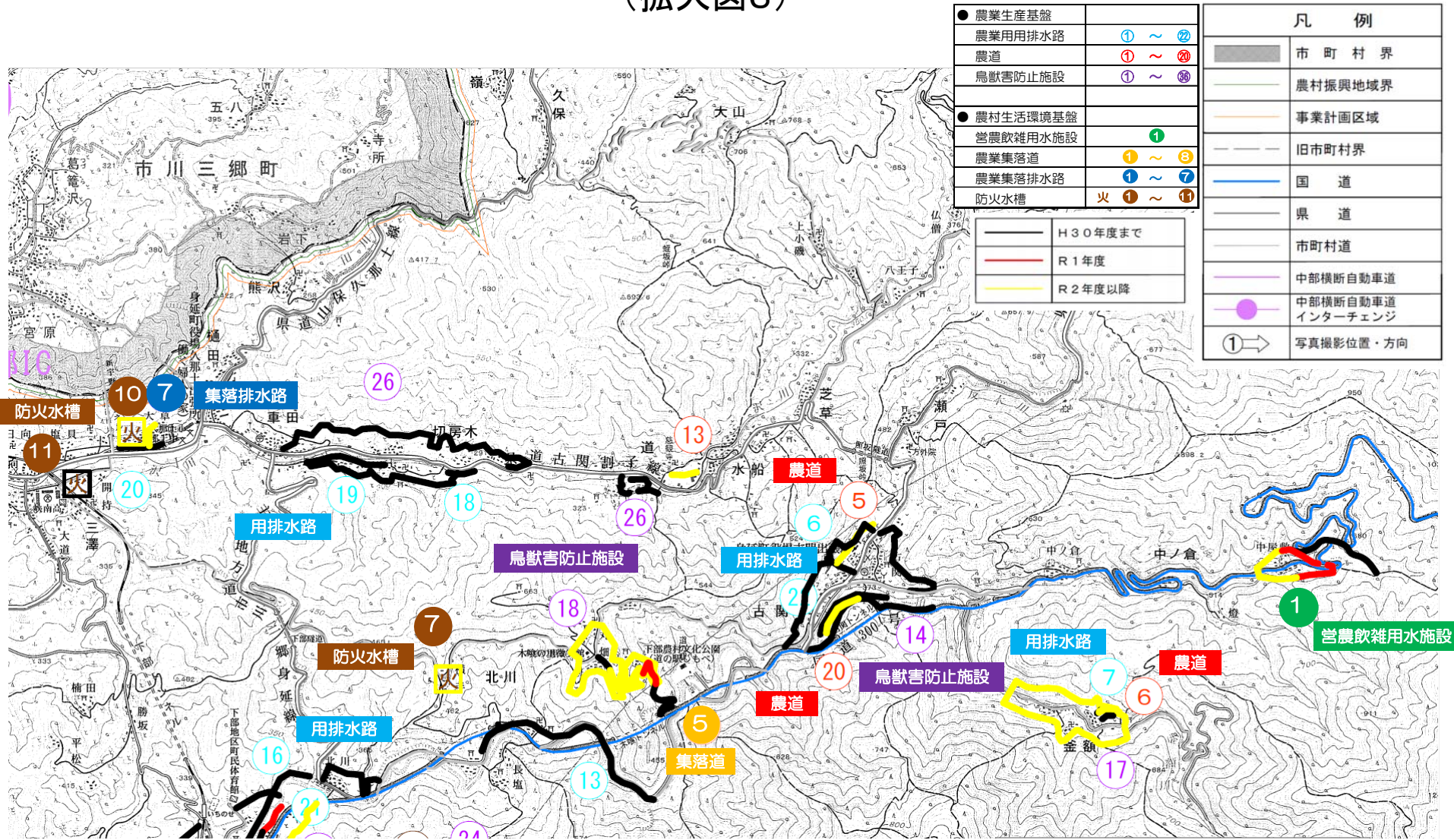


3. 添付資料シート (3)

(拡大図2)



(拡大図3)



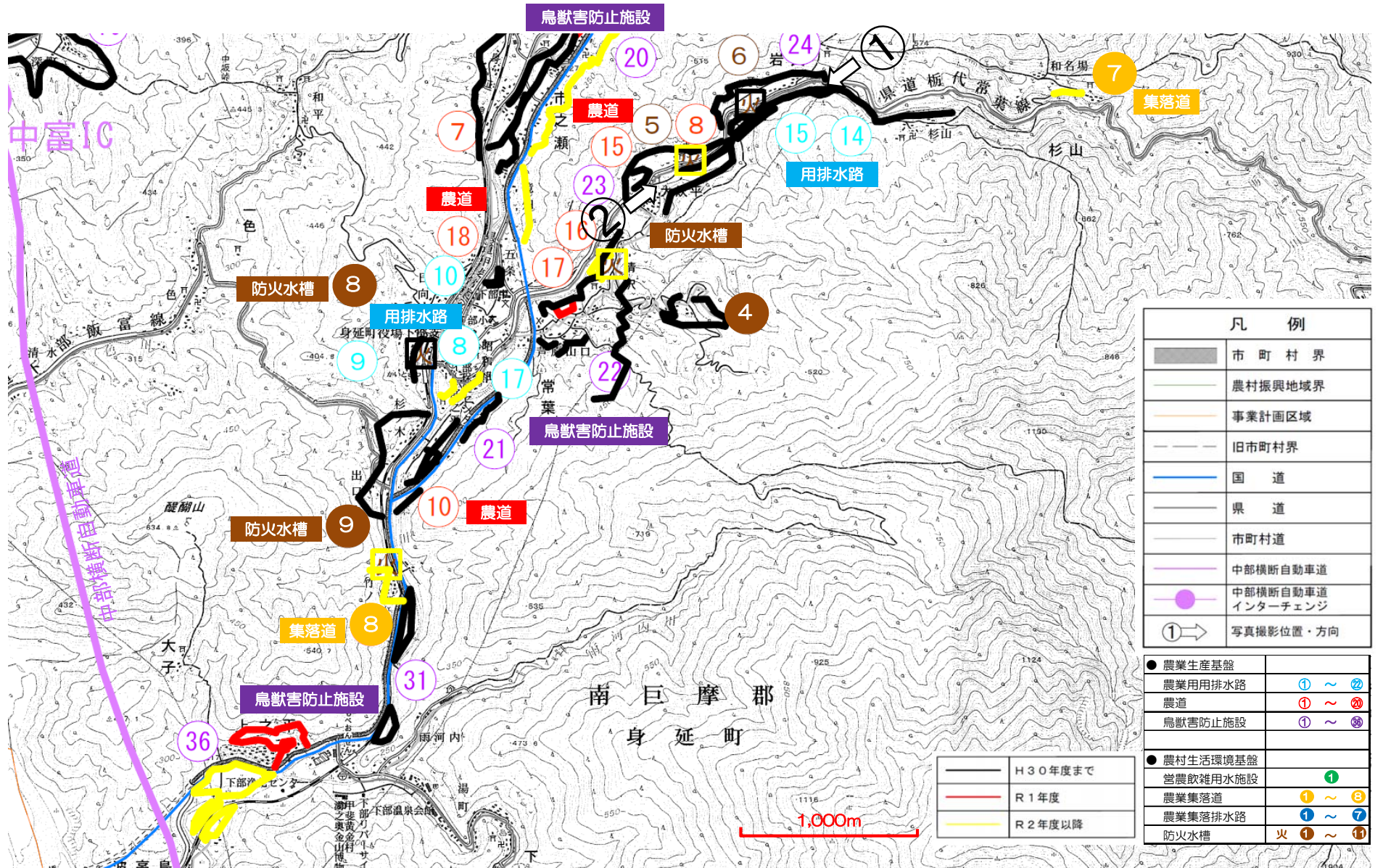
● 農業生産基盤	
農業用排水路	① ~ ②②
農道	① ~ ②①
鳥獣害防止施設	① ~ ③⑥
● 農村生活環境基盤	
営農飲雑用水施設	①
農業集落道	① ~ ⑧
農業集落排水路	① ~ ⑦
防火水槽	火 ① ~ ①

—	H30年度まで
—	R1年度
—	R2年度以降

凡 例	
■	市町村界
—	農村振興地域界
—	事業計画区域
—	旧市町村界
—	国道
—	県道
—	市町村道
—	中部横断自動車道
●	中部横断自動車道インターチェンジ
① →	写真撮影位置・方向

1,000m

(拡大図4)



凡 例	
	市 町 村 界
	農村振興地域界
	事業計画区域
	旧市町村界
	国 道
	県 道
	市町村道
	中部横断自動車道
	中部横断自動車道 インターチェンジ
	写真撮影位置・方向

● 農業生産基盤	
農業用排水路	① ~ ②
農道	① ~ ⑳
鳥獣害防止施設	① ~ ㉙
● 農村生活環境基盤	
管農飲雑用水施設	①
農業集落道	① ~ ③
農業集落排水路	① ~ ⑦
防火水槽	火 ① ~ ⑩

	H30年度まで
	R1年度
	R2年度以降

1,000m

### 3. 添付資料シート(6)

#### 営農飲雑用水施設



当初計画取水位置において、水質調査を行ったところ、大腸菌が検出され、飲用水としての基準を満たさないため、取水位置の変更を行う必要が生じた。  
変更取水位置について検討した結果、上流部において、水質の基準を満たしたため、管路延長などによる工事費の増。



### 3. 添付資料シート（7）

#### ①農業用排水路の整備



老朽化した水路を改修することにより、安定した用水が確保されるとともに、維持管理労力が軽減され、生産効率が向上した。

#### ②農道の整備



狭隘な農道を改良することにより、軽トラック同士のすれ違いが可能になるなど通作環境が改善し、作業性が向上した。

#### ③鳥獣害防止柵の整備



鳥獣害防止柵の整備により野生動物による被害が防止され、耕作放棄地が解消されるなど、営農条件の改善が図られた。

#### ④都市農村交流の推進



「あけぼの大豆」の収穫祭などを通じて県内外から多くの人々が訪れ、都市農村交流が促進されている。

#### 4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費（千円）	事業概要	進捗率
H22	353,793	農業用排水路 L=600m、鳥獣害防止施設 L=10,828m	9.4%
H23	517,194	農業用排水路 L=1,648m、鳥獣害防止施設 L=14,770m、農業集落道 L=120m	23.1%
H24	813,910	農業用排水路 L=1,657m、農道 L=873m、鳥獣害防止施設 L=22,622m、農業集落道 L=249m	44.6%
H25	250,000	農業用排水路 L=955m、農道 L=91m、鳥獣害防止施設 L=2,202m、農業集落排水路 L=513m	51.2%
H26	254,000	農業用排水路 L=20m、農道 L=356m、鳥獣害防止施設 L=3,408m、農業集落排水路 L=235m、集落防災安全施設 N=4箇所	58.0%
H27	195,000	農業用排水路 L=587m、農業集落道 L=181m、営農飲雑用水施設 N=一式	63.1%
H28	222,000	農業用排水路 L=903m、農道 L=88m、農業集落道 L=316m、営農飲雑用水施設 N=一式	69.0%
H29	185,000	農業用排水路 L=240m、農道 L=590m、農業集落道 L=246m、営農飲雑用水施設 N=一式	73.9%
H30	120,000	農道 L=36m、鳥獣害防止施設 L=113m、農業集落道 L=63m、営農飲雑用水施設 N=一式	77.1%
R1	300,000	農業用排水路 L=333m、農道 L=399m、鳥獣害防止施設 L=1,000m、農業集落道 L=540m、営農飲雑用水施設 N=一式、農業集落排水路 L=190m集落防災安全施設 N=1箇所	85.0%
R2	242,000	農業用排水路 L=720m、農道 L=593m、鳥獣害防止施設 L=1,569m、農業集落道 L=380m、営農飲雑用水施設 N=一式、	91.5%
R3	219,000	農業用排水路 L=m、農道 L=350m、鳥獣害防止施設 L=2,850m、農業集落道 L=460m、集落防災安全施設 N=4箇所	97.3%
R4	103,700	農業集落道 L=120m、農業集落排水路 L=350m、集落防災安全施設 N=2箇所	100.0%
合計	3,775,597		